



彼が最も意識を払っているのが、コミュニケーション、飼い主の満足度だ。「飼い主さんが動物病院を選ぶとき、最大の判断材料は口コミです。ですから、自立した動物病院として事業を続けるには、1人ひとりの飼い主さんとの信頼関係を地道に積み上げていくことが何より大切です。特に、ペットと飼い主さんが

潜在的に何を求めているのか、その『心の声』を聞き取れるよう意識しています」
加藤さんは、飼い主、そして他のスタッフにとっても気さくに話しかけやすい存在だ。しかし、コミュニケーションに必要なのはフランクさだけではない。飼い主の真剣な悩みを汲み取ること、最適な治療法をわかりやすく提案する対話、そして飼い主に満足してもらえるサービスを、たえず磨いてきた。
それが、開業以来19年間成長し続けているという結果にもつながったと加藤さんは考えている。現在は、「調布市にも系列病院「レオ動物病院」を開院している。「100%の納得は、あり

えないかもしれません。それでも、飼い主さんに満足してもらいたい。中途半端な医療はしたくない。この思いこそが19年間、ずっと変わらない私の理念です」
動物医療の発展のカギは「適正価格」にある！
日々精力的な活動を続ける加藤さんだが、動物医療を取り巻く環境には危機感を抱いている。
「現在、医師の平均年収が1141万円であるのに比べ、獣医師は616万円です。獣医師も動物看護士も、社会的地位は決して高いとはいえません」
動物病院の料金体系は自由診療である。院長が診療費を決定するわけだが、適正な額でないと病院の維持すらままならない。
「私個人としては、経営をより安定させ、スタッフの収入を高めたい。しかし、獣医や看護士全体でも問題意識を共有し、社会的地位を高めていかなければならないとも考えています」
適正な価格でのサービス提供が、診療体制を安定化させ、ひいては動物たちの健康維持につながるの信念が、そこにはある。理想の具現化を目指して、今日も加藤さんは奔走する。



明るい^{おお}大先生が盛り上げる 快適な空間、 ペットと飼い主の 「心の声」を大切にしたい！



Lion Animal Hospital
ライオン動物病院

Doctor
加藤真吾



東京都三鷹市の閑静な並木通り。その一角に、ひときわ目立つ「皇帝ペンギン」のマスケットが立っている。ここは、加藤真吾さんが代表を務めるライオン動物病院の入口だ。
「病院名は『ライオン』ですが、あえてそこにペンギンがいたほうがインパクトがあるかなと思いついて」

今では、近所の子どもたちの人気者なんですよ」
ちゃめつ気たっぷり話す加藤さん。周りの空気を盛り上げる、ムードメーカーだ。スタイリッシュな院内インテリアも、すべて自作でしつらえた。若い獣医師と動物看護師が多く、皆がきびきびと働く院内は明るいムードに包まれている。
加藤さんは、町田市の牧場一家に生まれた。獣医学部に進んだが、そこで痛感したのが「産業動物」と「愛玩動物」の違いだった。
「産業動物には、多額のお金をかけ難病を治すという発想はありません。しかし、愛玩動物は家族同然ですから、飼い主さんはなんと少しでも病気を治したい。です

から、愛玩動物を診る獣医には、情熱と高度な最新医療が不可欠です。そこにやりがいを感じたのです」
**心の声を聞き分けることが
獣医の果たすべき使命**
高度な診療サービスを提供すべく、様々な医療機器が導入されている。たとえば、超音波画像診断装置。無血・無痛で病状を把握するには、不可欠の装置だ。
「血液検査やレントゲン等を用いて正確かつ迅速に診断しなければ、助けられない命が助けられないこともある。いまや、獣医師の経験や勘だけで診断する時代ではないのです」
しかし、医療技術は「大前提」だと話す加藤さん。

あなたの目指す動物医療とは？

ライオン動物病院院長・副院長・動物看護師に聞きました！

◆土岐政晴（院長）

自律的に働ける環境で

1・5次診療を目指します！

獣医師歴は今年で10年、この病院は来てから約4年になります。大先生は個々の主体性を大切にしてくるので、自ら最適な診断を考えるやりがいがあります。目標は、ホームドクターが手がける1次診療と大病院などが手がける高度医療（2次診療）がバランスよくまとまった1・5次診療ですね。基礎データの蓄積などまだ課題はありますが、この病院にはその目標

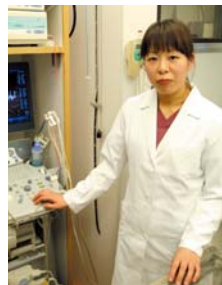
を実現できるだけの環境があるとと思います。



◆清水友紀（副院長）

クリアに検査できる機器でいのちを見つめたい！

加藤大先生は「これじゃなきゃダメだ」という押し付けをせず、一人ひとりの能力が最大限発揮できるような気を配ってくれます。レントゲンや超音波測定装置、内視鏡といった機器



◆望月香（動物看護師）

一匹一匹に応じたケアを掴んでいきたい！

今年で8年目になります。

診療中のワンちゃんやネコちゃんが逃げ出さないように押さえたりしていると、時にはちゃんやな子に腕をひっつかれたりもします。でも、どの子にも愛着がわきますね。それぞれの子の性格に応じた接し方も、だんだん掴めるようになってきました。飼い主様にも居心地よく受診していただくよう、きめ細やかな対応をしていきたいです。

自宅でも、犬とネコを一匹ずつ飼っています。動物と共生できる環境で仕事ができる幸せを感じています。



ライオン動物病院が誇る5つの魅力

1 隠れた病巣を即キャッチ！ 高性能を誇る検査機器

高い画素数を誇る超音波画像診断装置（GEI P6）やデジタルレントゲンに加え、他院ではまれな「内視鏡」を2基完備。これらが、言葉を発せない犬や猫に代わり、病巣を見抜く「目」となるのだ。「獣医師が動物を見ただけ、触っただけで『ここが悪い』と言う。果たしてそれで飼い主さんは納得してくれるでしょうか。当院では、できる限り客観的なデータを提示します」（加藤代表）

2 自律的な若いスタッフが手厚くケア

スタッフは獣医9名（うち女性5名）、動物看護師6名（全員女性）、マネージャー1名（男性）の計16名。個人病院としては相当、大所帯と言える。若いスタッフが、自らの技術と体力と情熱をかけて、全力で診断・治療・ケアに臨む。自ら考え、行動することが求められる動物病院だからこそ、一人ひとりの能力を最大限に発揮できるのだ。

3 もしものときも安心！ 充実した病院・大学連携

CT・MRI検査が必要な場合、連携するキャミック（動物検診センター）にて、即座に検査することができ。また、

4 きめ細かなサービス体制

ライオン動物病院は、獣医師の指定も可能だ（要予約）。一人の獣医師に継続的に診断してもらうこととして、信頼も深まる。

特殊な難病に関しては、4大学の各大病院と共に診断にあたる。さらに、夜間往診が必要な場合には、提携する夜間専門病院「動物救急」に連絡することで、午前3時まで往診対応が可能だ。なお、調布市国領町には、系列の「レオ動物病院」がある。調布市近辺であれば、こちらでの迅速な対応が可能だ。

5 スタイリッシュで暖かい 大先生自作のインテリア

内装は、換気設備も含め、すべて加藤代表が自ら手がけたもの。動物医療のフロアである獣医自らが、機能面とデザイン面を考慮して作ったインテリアは、動物と飼い主に安心感を与えてくれる。

また、アニコムなどの動物保険に加入している場合、病院内での精算が可能。診察料の支払いには、各種クレジットカードなども使用できる。HPでは、スタッフや各種機材の紹介などのほか、症例ごとの手術方法も画像入りで紹介されている。